

スポーツ振興事業助成金「競技大会助成事業」実施報告

助成事業の実施結果及び助成金の使途に関する情報(令和5年度・2023年度)

○助成対象事業

競技大会名 「FISジャンプワールドカップ2024札幌大会」
期 日 令和6年2月17日(土)～18日(日) (男子個人戦2戦)
会 場 札幌市 大倉山ジャンプ競技場

種 目: 2月17日(土) ラージヒル(HS137) 個人戦(16:00 競技開始 ナイトゲーム)
2月18日(日) ラージヒル(HS137) 個人戦(11:00 競技開始)

参加選手数: 57名 外国選手 48名(その他海外役員・各国コーチ数 60名)
日本選手 9名(オースター5名+開催国枠4名) 参加国数14か国

(令和5年度のスポーツ振興助成金「競技大会助成事業」は、1980年より札幌で開催している男子ジャンプワールドカップ札幌大会の開催にご支援ご協力をお願いし実施した。)

1980年から始まった国際スキー・スノーボード連盟主催のジャンプワールドカップは、世界トップクラスの選手が多数参戦し、年間王者を決定するジャンプ大会であり、札幌において40年以上の歴史を重ね、継続的に開催してきた国際競技大会である。

渡航制限のない今季は2戦を開催、2月15日、日本選手を含む選手団が札幌に到着、開催国枠の日本選手4名を含む57名がエントリーし、2月16日(金)の公式練習及び予選ラウンドに出場、翌17日(土)の50名による第1戦を実施した。北京五輪金メダリストの小林陵侑選手を擁する日本チームは、世界各国の選手と熱戦を繰り広げた。

今大会には公式練習及び予選ラウンドに、大ベテランの葛西紀明選手が出場し、50名の本選に進出、多数の報道並びに観客の注目を集め、熱戦を期待するファンが声援を送った。

土曜日開催の第1戦目、曇り空で緩やかな風が吹く大倉山の競技は、小林陵侑選手が1本目128.5mで1位、2本目も飛距離を伸ばしたが、大倉山を得意とするシュテファン・クラフト選手(AUT)が2本目に139.0mと飛距離を大きく伸ばし、飛型点でも小林選手を上回り逆転優勝した。

翌日2月18日(日)第2戦目の天候は晴天、向い風が吹く中で試合が行われ、'風'を味方につけ飛距離を伸ばすことが出来る選手が勝者となる展開で、選手達は大きなフライトを見せていた。その中で、W杯の覇者:小林陵侑選手は、1本目4位の成績から2本目飛距離を伸ばし追い上げたが、前日に引き続き惜しくも2位の結果となった。また、連日会場を盛り上げていた葛西選手は、札幌大会2戦とも予選を通過して本選に進出、札幌開催に訪れた報道関係者並びにベテラン選手の活躍に期待する来場者を大いに喜ばせると同時に海外選手諸氏の賞賛を集めていた。

今後の課題としては、海外へと羽ばたく若手選手の奮起にも期待したい。

選手・競技役員・大会役員ほか来場された方のご協力により、本大会を無事開催出来たことを報告し、関係各位に深く感謝いたします。

【助成金の使途】

下記の助成対象経費の一部に充当 競技会開催/助成金額 6,693,000円
借料及び損料(会場設営機材等)、雑役務費(競技場整備・警備等)

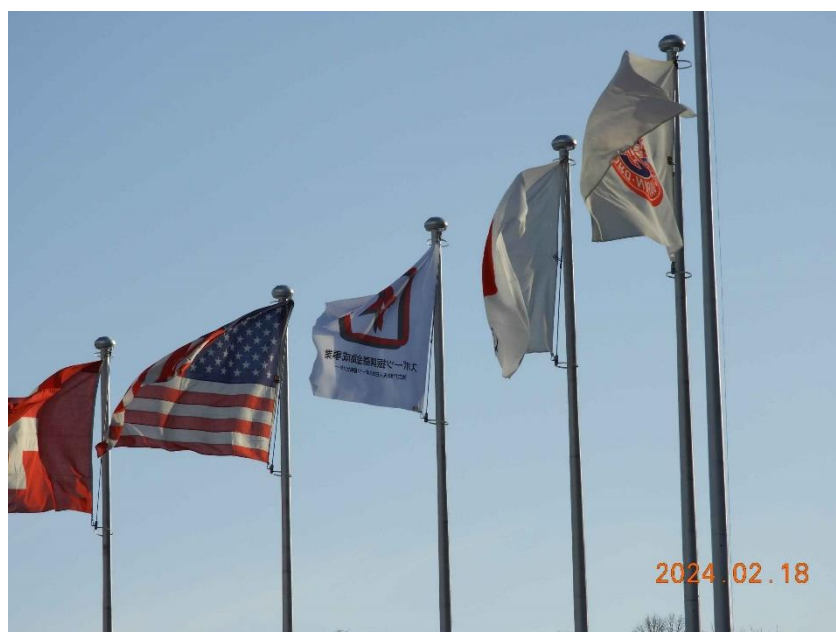
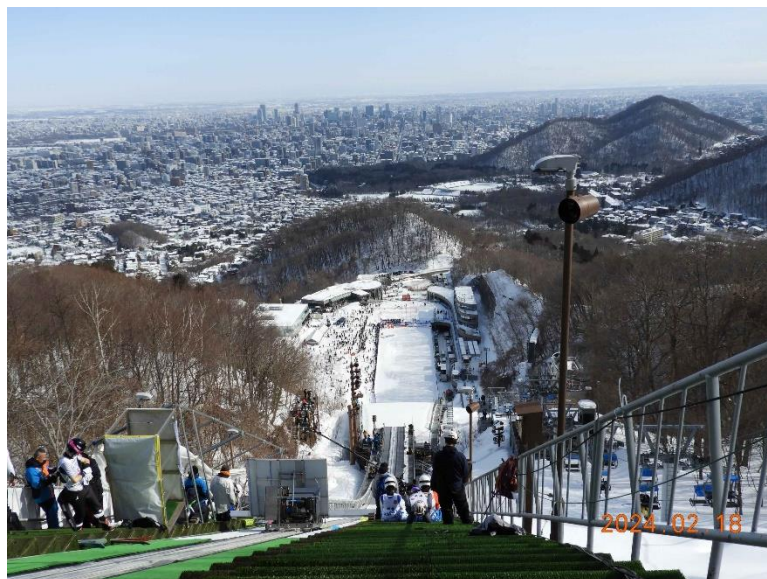
FIS Ski Jumping World Cup
2024 Sapporo
Sat 17. February. 2024



FIS Ski Jumping World Cup
2024 Sapporo
Sat 17. February.2024



FIS Ski Jumping World Cup
2024 Sapporo
Sun 18. February. 2024



FIS Ski Jumping World Cup
2024 Sapporo
Sun 18. February. 2024

